

家族で防災会議を開きましょう

災害は、家族がそろっている時に発生するとは限りません。自宅、学校、職場、出張先など、家族が別々の場所にいる時に起こる可能性もあります。被害を小さくするためには、さまざまなケースで災害を想定し、備えておくことが大切です。災害が起こった時を想定し、家族で話し合いながら点検してみましょう。



1 やることと役割を決めておきましょう

- ▶ 火を消し、ガスの元栓を閉める
- ▶ 子どもや高齢者の安全を確認する
- ▶ 危険な場所を点検し、応急処置をする
- ▶ 電気器具のコンセントを抜く、ブレーカーを切る
- ▶ テレビやインターネットなどで情報を確認する
- ▶ 避難出口を確保する
- ▶ すぐに戻ってこられない家族へ伝言を書いておく
- ▶ 家の前に行先や連絡先を書いた紙を貼っておく

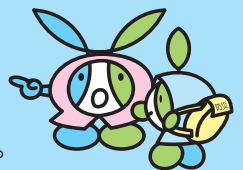
2 危険個所をチェックしましょう

家の内外に危険個所がないかどうかチェックし、対策をしましょう。

- 1 背の高いタンス、冷蔵庫などは転倒防止器具で固定
- 2 吊り下げ型の照明は、揺れ防止金具で固定
- 3 玄関や出入口までの通路に家具など倒れやすいものを置かない
- 4 テレビはできるだけ低い位置に置き、粘着マットで固定
- 5 窓や戸棚のガラスに飛散防止フィルムを貼る
- 6 寝室には大きな家具は置かない
- 7 トイレなど柱が多くせまい空間や、大きな家具などを置かない部屋など、いざという時の逃げ場を確保
- 8 側溝や排水溝は掃除し、水の流れをスムーズにしておく

3 非常持ち出し品と非常備蓄品をチェックしましょう

必要な物品がそろっているか確認します。また、定期的に保存状態や消費期限を点検し、必要であれば交換しましょう。



4 防災用具をチェックしましょう

消火器や救急箱を確認し、使い方や手当の方法を覚えておきましょう。

6 わが家の防災マップを作りましょう

家の付近を実際に歩いてみて、危険な場所や避難場所(小学校・中学校・公園など)、避難経路を確認し、イラストなどで簡単にあらわした「わが家の防災マップ」を作成しましょう。避難経路は一つではなく、通行できない場合に備えて複数決めておきましょう。



5 緊急連絡カードを作りましょう

家族の避難場所や集合場所、連絡方法などを話し合い、決めたことをカードとして携帯するようにしましょう。



カードはこちらのQRコードからダウンロードできます▶

緊急連絡カード	
住所	TEL
氏名	(男・女)
生年月日	年 月 日 血液型: RH + -
保護者	氏名 連絡先 TEL
勤務先(学校名)	TEL
避難所	一時避難場所 災害時避難所 広域避難場所
家族が離ればなれになったとき	集まる場所 連絡先 TEL
	持病・アレルギー等
	医療機関等連絡先 健康保険証番号

自分と家族の命を守るために

保護者の皆さんはお子さんに、災害が起こった時仮にひとりであった場合、どのように行動すればよいかお話しされていますか？

9月1日の防災の日を含み、8月30日から9月5日までは防災週間です。この機会に保護者の皆さんは、災害が起こった時に自分で自分の身を守るように、また家族が家族の命を守るように、家族の防災会議で「わが家のルール」を作ってみてはいかがでしょうか。



市民防災マニュアルはこちら▶



☎ 地域支援課(防災) TEL 06-6532-9972 FAX 06-6538-7318